

た右手。これも五指の指頭を上になしし掌を左に向けた右手。この両手を前後にならべて、人が一列にならんだ形を表わし、そのまま前へ進ませる。人が列をつくって行進する様遠慮する。「案じる」「憂れい」と同じ手まね。但し、夫々の意味にそう表情で區別する。

鉛筆 右手の人差指と親指で、物を持つように指頭を合わせ、それを口もとに持って行き、次に下に戻して字を書く真似をする。鉛筆の先をなめることによって鉛筆を表わした手まね。

### オ

甥 兄(弟) 姉(妹) V 息子。兄弟姉妹の何れかの手まねをして生れる男性(中指)

おいしい 「うまい」の(一)と同じ。

王 指頭を上にしたした親指の右手(男性)を左の掌の上に載せ、眼の上になしし上げる。

「天皇」「皇帝」ともなる。

応援 「援助」と同じ手まね。

大方 掌を下に向け五指の指頭を前方直角になしした両手を左右につけ合わせ(両手の親指がつく)てから、両手を左右に離して何れも下へ弧を描いて降して行き(自然に両手の掌が上向きになる)再び下で両手がつけ合う(両手の小指がつく)、以上は、「凡て」「一切」「みんな」の手まねになるが、「大方」とするには両手が下方で合わせる手前で少しの間隔を置いて停止させる。「凡て」では両の手で一つの完全な円を描くが「大方」は、一部が欠けた不完全な円となる。つまり、もう少しで完全な円となる即ち凡てでなく「大方」なのである。

扇 五指の指頭を上になしし掌を内側にした

左手。これも五指の指頭を上にしし掌を前向けた右手。この両手を掌でぴったりつけ合せてから、互の首を軸にして、ぴったりつけたまま扇を開くように右手を左へ、左手を右へ傾ける。次に右手で扇を持つ姿態で煽ぐ身振り。

**大袈裟** 五指の指頭を右にしし掌を下に向けた左手の首の下を、掌を前に向け五指の指頭を集め合わせた手をくぐらせて前にさし出すと同時に五指を大きくひろげて開く。

右手を下から出して大きくひろげて見せるのは――大きく見せる――即ち「大袈裟にする」のである。

**狼** 五指の指頭を前方にさし掌を下に向けた右手の手甲（手首寄り）を口もとにつけると、そのまま五指を斜め上に向け、ひらひらと動かす。飢えた狼のあえぐ舌を表わす。

**大勢 多い** 掌を内側に五指の指頭を上

にした両手をそれぞれ左右胸の前にして、五指を前後にいそがしく動かしながら両手を引き寄せる。両手の五指によって数を意味し、せわしげに五指を動かして引き寄せて、応接にいとまなしと云うほどの「多敷」を表わしたものと思えばよい。「多い」「沢山」の手まねともなる。

**皇子（王子）** 左手の掌の上に指頭を上にした中指（男性）を載せ上へさし上げる（王、天皇と同じ要領）



応諾 解った

（「会得」――引受ける）

**横着** 五指の指頭を斜め上にした右手の手甲を反対側の左の

頬につけ、斜め上下にこする。